

14

松飾徳若譚

菱初篇下

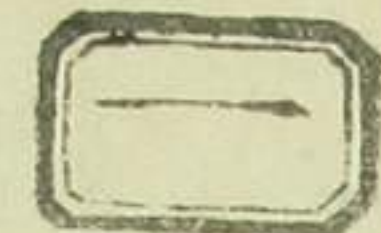
遠
2687
6-1





特
~14
2687
1





徳若小御萬歳と御代も蒙て在りまをと
 松竹建門邊に諷ハホウと
 わけたる鶯の初音も
 通ふ

仁木黨助光
 政雪中免を狩
 元且乃吉例

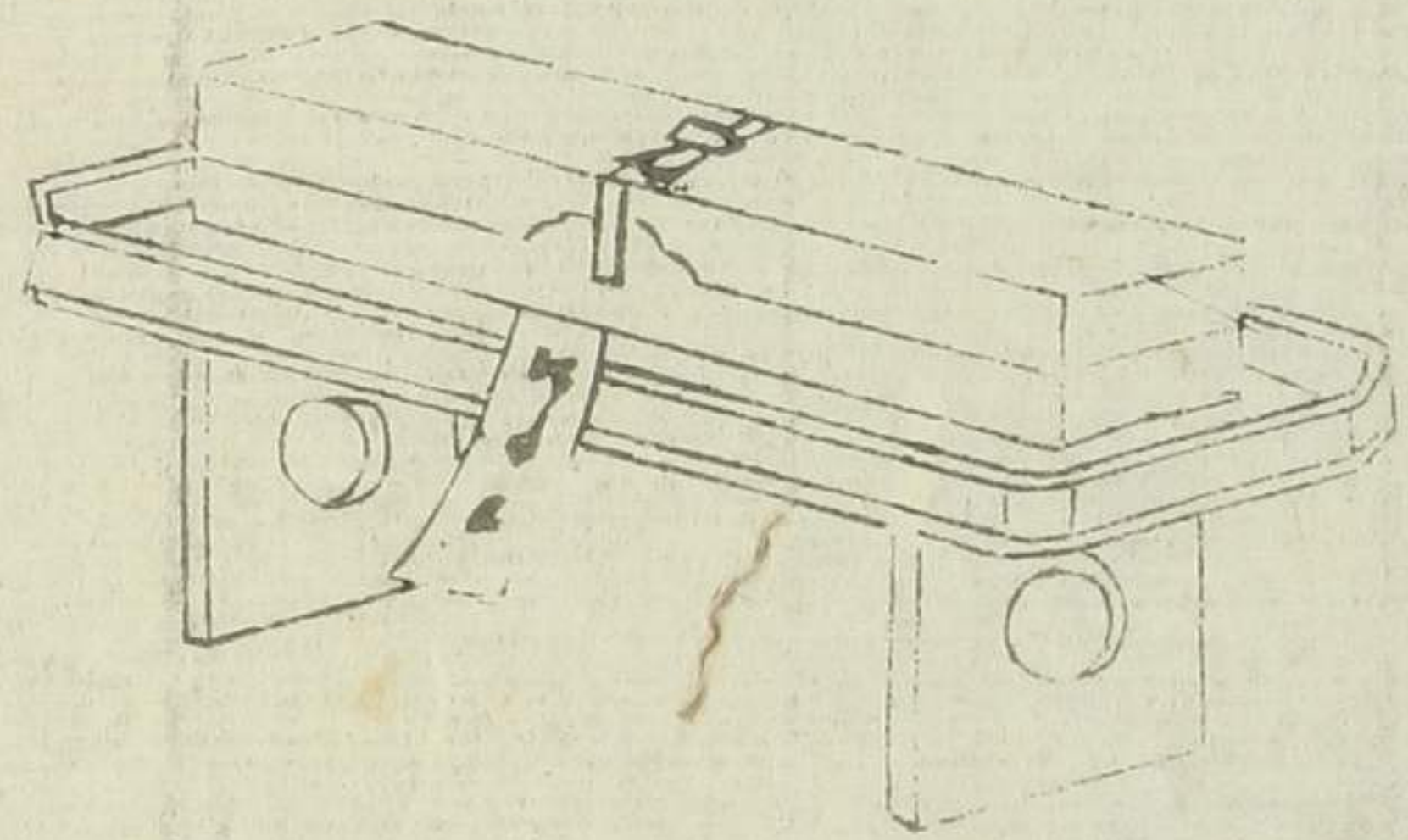
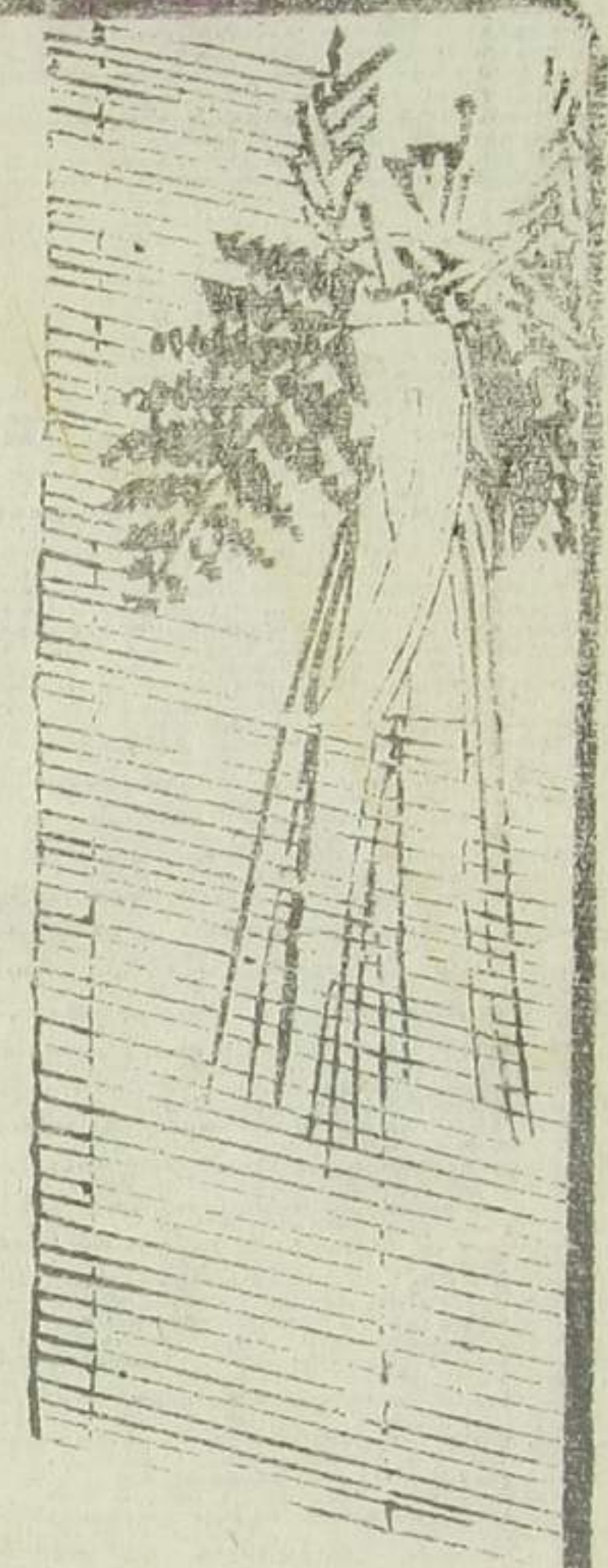
公布



徳和加貝物語

初編上巻

假名垣作芳虎画



加吉
 版

公市



新田右京亮
源有近

才良



仁木黨助
の娘阿雪

全妻阿妙

申文の鼓の音も。實の聖代と改新の春の且乃二日試筆。好文木の
 窓前の彼八橋の蜘蛛みかむ。脚色と設きくかきほを。先
 當編と三河記や。僅の種も在原か。東下向の名勝古跡。居る
 か。知るべき。学問のたより色。風土のみぎ。地理行極り。草稿遅
 に書肆が催促。才若あう。看官が。まのちや。こむやと下種か
 秀句。ソツト兼知の舌鞞。ホク。誇て使を帰し。茲の初編の
 柱建素袍の袖乃長物語。弥勒十年辰歳。あう。相續き
 ての御評判と正月祝言で。冀ふに。あう。

舊くくらの老實家。毎日に宿他行はし

明治四稔
 辛未初春

水湖堂 假名垣魯文



あれ
 それ天の
 の日ま
 あうの王
 臣西雄
 うらやう
 そのふ

建武の兵乱

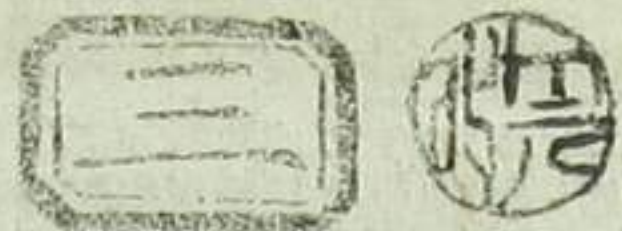
日
 魯文
 假名垣
 水湖堂



梅
芳
虎
馬

初編下





上の巻
 肉のあちつれと
 よむむむむ
 素まるといそぐ
 こまのトやう
 やくのさめ
 せげまーく
 こまのりもちと
 ひねらるまの
 ちさーてあむむ
 ちさる

上の八丁目より
 ○かくてありあ
 らやエのりひ
 さどりくてもまの
 らふるまーの
 さとあひすつふ
 こらすけとちあふ
 へくまめ

松輪

四五日

△まのりもち
 こまのりもち
 こまのりもち
 こまのりもち



海わの
 初編
 文
 文
 文

文
 文
 文



